



日  
本

# の源流再発見

File 15

岡山県倉敷市

干拓地からジーンズの一大産地へ



岡山県南部の倉敷市は、近世からの干拓地で栽培された綿やイ草による繊維産業が栄え、日本有数の「繊維のまち」へと発展しました。足袋に始まり、現在ではジーンズの産地として広く知られ、日本遺産「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」として認定されています。

ジーンズミュージアム

## 一輪の綿花から始まる繊維産業の歴史

運河と白壁の町並みが美しい「倉敷エリア」、ジーンズの産地として名高い「児島エリア」、日本有数の工業地帯である「水島エリア」など多彩な顔を持つ倉敷。この周辺は大小の島が点在する海でした。その後、高梁川からの土砂が堆積して浅瀬となり、近世以降の干拓によって陸地へと変わっていきました。

干拓地は塩分が強いため稲作には向かず、塩分に強い綿やイ草が栽培されたことから、倉敷では繊維産業が根付きました。明治時代になると国を挙げて紡績業が奨励され、1881年に国内初の民間紡績所である下村紡績、

玉島紡績が開業。1889年には当時最新だった英国式の設備を備えた倉敷紡績所（現クラボウ）が創設されるなど、紡績業とともに発展しました。

美観地区にある倉敷エリアは見どころが多く、海外からも多くの観光客を集めています。旧倉敷紡績所本社工場を改修した「倉敷アイビースクエア」や米倉を改修した「倉敷考古館」のほか、1930年に設立された日本初の私立西洋美術館である「大原美術館」、国指定重要文化財の「大橋家住宅」、江戸時代後期の米倉を活用した「倉敷民藝館」など、見ごたえのある歴史



児島ジーンズストリート

建造物がたくさんあります。

南部の児島エリアは、大正時代以降の服装の洋装化にともない学生服や作業着などの洋装を手がけるようになり、1955年には全国の学生服の約7割を児島産が占めるまでになりました。その縫製技術を活かし、1965年に国内



▲ 倉敷美観地区

江戸時代には「天領」として新田開発により発展し、明治以降は繊維産業で大いに栄えた倉敷エリアの中心部は、倉敷川沿いに柳並木が続き、白壁土蔵や古い洋館など往時の美しい町並みを今にとどめています



▲ 旧野崎家住宅

江戸後期に大規模な塩田を開き「塩田王」と呼ばれた野崎武左衛門の屋敷（国指定重要文化財）。塩田に関する資料なども閲覧可能です



▲ 倉敷考古館

江戸時代の土蔵造りの米倉を改装した倉敷を代表する建物の一つ。1950年に開館し、岡山県を中心とした吉備地方の、旧石器時代から中世に至るまでの出土品を展示しています



▲ 倉敷アイビースクエア

旧倉敷紡績所本社工場を改修した複合文化施設で、ホテルやレストランなどがあります。赤レンガの壁を覆うほどのツタが印象的です

で初めてジーンズを生産します。1990年代までは大手メーカーが生産拡大を続け、2000年代以降は時代の流れとともに大手メーカーに代わり、独自性のある中小規模のメーカーが多数登場してきます。こうしたなか、シャッター通りであった商店街をジーンズをキーワードに再生した「児島ジーンズストリート」は、ジーンズ好きには見逃せない新たな観光スポットになっています。

「ジーンズミュージアム&ヴィレッジ」は、ジーンズの歴史がわかる「ジーンズミュージアム」やジーンズ作り体験工房、アウトレットショップなどを備えた世

界でも珍しいジーンズがテーマのミュージアムエリア。ジーンズメーカー Betty Smithの敷地内にあり、2003年に地元の小学生が地場産業を学ぶ見学施設として誕生しました。その後お客様の要望に応え、施設を拡大。今では年間約5万人が訪れる人気スポットとなっています。

ココに注目

「くらしき桃子」では、地元産の季節の果物を使ったパフェが常時食べられます。旬以外でも、名物の桃はシロップ漬けで用意しています。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた岡山県には株式会社日立ハイテクフィールドイング 岡山サービスステーションがあります。日立ハイテクグループの一員として、産業・医療など幅広い分野の装置やシステムの保守・メンテナンスサービスを行っています。

株式会社日立ハイテクフィールドイング 岡山サービスステーション

岡山県倉敷市昭和2-4-14 竹富ビル6階 <https://www.hitachi-hightech.com/hfd/>